

令和4(2022)年度
学生募集要項
医学部

総合型選抜

【重要】新型コロナウイルス感染症対策における対応

新型コロナウイルス感染症の状況によっては、記載されている試験内容と異なる方法で選抜を実施することがあります。

入学試験の日程等を含め、変更が生じた場合は、本学ホームページにて随時公表いたしますので、必ず本学ホームページにて最新情報を確認してください。

また、本要項には「新型コロナウイルス感染症対策（受験生の対応）について」を記載していますので、必ず内容をご確認ください。

本学ホームページトップ>医学部>受験生の皆さん
<https://www.dokkyomed.ac.jp/dusm/exam/>



CONTENTS

建学の精神・建学の理念・教育理念・教育目標	1
ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	2
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）	3
アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）	4
獨協医科大学総合型選抜に出願される皆さんへ	7
獨協医科大学が総合型選抜入学者に求めるもの	10
教授から総合型選抜受験生へのメッセージ	11
1)基礎医学系教授からのメッセージ	11
2)内科系教授からのメッセージ	12
3)外科系教授からのメッセージ	13
◇ 総合型選抜	14
募集学科・人員	14
出願資格	14
出願手続	14
出願方法	15
第1次試験	16
第1次合格発表	16
第2次試験	16
選抜方法	17
合格発表	17
入学手続	17
◇ 学納金等について	18
納入金	18
納入金返還申し出期限	18
奨学金制度	18
寄付金	18
◇ 合格発表についての注意事項	19
◇ 入学前教育について	19
◇ 個人情報の取扱いについて	19
◇ 新型コロナウイルス感染症対策（受験生の対応）について	19
◇ 試験場案内図	20

建学の精神

学問を通じての人間形成

建学の理念

- 1) 人間性豊かな医師及び看護職者の育成
- 2) 能力の啓発に重点を置く教育方針
- 3) 地域社会の医療センターとしての役割の遂行
- 4) 国際的交流に基づく医学・看護学研究

教育理念

患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師の育成。

教育目標

- 1) 教育とは「学生本人の力をひき出し、育む」ことが本意であり、医学を修得するのは学生自身であることを十分認識させ、主体的な学習能力を養う。
- 2) 医師であると同時に、社会人として心身ともに健康でバランスのとれた人格形成を目指す。
- 3) 患者の権利と生命の尊厳とを尊重し、医の倫理に則り、思いやりのある医療を実践できる医師としての人格を養う。
- 4) 患者の身体的・精神的・社会的側面を理解して、問題点を整理し解決する能力を養う。
- 5) 地域社会における保健・衛生及び福祉の向上に独自の計画が立てられる能力と責任感を養う。
- 6) 国際的医療情報の収集及びそれを解析する能力を養う。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学所定の科目を履修して卒業に必要な単位を修得した上で、総合試験、共用試験および卒業試験に合格し、本学の教育理念である「患者やその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師」として活躍できる資質を有すると判断される者に卒業を許可します。

具体的には以下のような、それぞれ2要素からなる7分野の学修成果（アウトカム）が求められます。

I. 医学知識

- 1) 人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。
- 2) 種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。

II. 臨床能力

- 1) 卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。
- 2) 医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。

III. プロフェッショナリズム

- 1) 医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。
- 2) 医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。

IV. 能動的学修能力

- 1) 医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。
- 2) 書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。

V. リサーチ・マインド

- 1) 最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。
- 2) 自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。

VI. 社会的視野

- 1) 保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。
- 2) 医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。

VII. 人間性

- 1) 医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。
- 2) 多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーに示された学修成果（アウトカム）を学生が達成することを目的として、本学では以下のポリシーに基づくカリキュラムを構築し、実践しています。

- ① 学生が正しい医学知識を系統的に身に付けられるよう、臨床実習前教育の主要必修科目については、最新のモデル・コア・カリキュラムに準拠して編成した講義と実習により行う。（Ⅰ）
- ② 正しい診療技能や医療安全への配慮などを実践できる医師を養成するため、参加型臨床実習を充実させる。（Ⅱ）
- ③ 医師に求められる良識、倫理観や教養などを学生が身に付けられるよう、人間形成に資する学修機会を低学年から高学年まで設けるくさび形カリキュラムを編成する。（Ⅲ-1、Ⅶ）
- ④ 学生の内発的モチベーションや能動的学修能力、コミュニケーション能力、協調性を育むため、アクティブ・ラーニングやグループ学習、ICT活用教育などを含む種々の教育技法を活用する。（Ⅲ-2、Ⅳ）
- ⑤ 地域医療におけるニーズの理解やリサーチ・マインドの涵養などを促し、卒後キャリアの多様性への対応を可能にするための学修機会を充実させる。（Ⅴ、Ⅵ-1）
- ⑥ 医学や医療をグローバルな視点で捉える豊かな国際性を育てるための国際交流や海外研修の機会を充実させる。（Ⅵ-2）
- ⑦ 学生が自らの学修成果達成度を具体的かつ客観的に認識できる方法で成績評価とフィードバックを行い、適切な学修行動の継続を促す。（Ⅰ～Ⅶ）

（ ）内は、それぞれのカリキュラム・ポリシーが目的とする学修成果（アウトカム）のディプロマ・ポリシーにおける分類です。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

獨協医科大学では、「学問を通じての人間形成」を建学の精神とし、これに基づき、医学部教育理念を「患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師の育成」と定めています。

また、卒業認定に求められる具体的な学修成果（アウトカム）や能力・資質をディプロマ・ポリシーに示し、その達成に向けたカリキュラム・ポリシーを開示しています。

獨協医科大学医学部では、教育理念やカリキュラム・ポリシーに基づいてより効果的に学生に対する教育を行うため、次のような基本的な素養を満遍なく備える人を入学生として求めます。

<求める入学生像>

- 1) 本学の建学の精神、本学医学部の教育理念、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーを理解・賛同し、本学の発展に貢献する意欲のある人
- 2) 医学を学ぶ上で必要な数学、理科及び英語を中心とする基礎学力、読解力、表現力を有している人（Ⅰ）
- 3) 医学への強い志を持って社会に貢献する意欲のある人（Ⅱ）（Ⅲ）（Ⅳ）（Ⅴ）（Ⅵ）（Ⅶ）
- 4) 計画性を持って学習に臨み、自ら問題を解決する意欲のある人（Ⅳ）（Ⅴ）
- 5) 社会の一員としての理性と常識を備え、広い視野を持ち適切かつ公正な判断ができる人（Ⅵ）（Ⅶ）
- 6) 協調性とコミュニケーション能力のある人（Ⅲ）
- 7) 他者の立場になって物事を考え行動できる人（Ⅶ）
- 8) 国際的視野を持って医学を志す人（Ⅵ）

（ ）内は、ディプロマ・ポリシーに該当する項目です。

獨協医科大学医学部では受験生に対し、入学生に求めるこれらの素養及び学力の3要素（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学修する態度）を踏まえ、多面的・総合的に評価・判定するため、次のとおり様々な選抜方法を導入しており、各選抜方式の特性に応じ、各種の試験方法を取り入れて、公平かつ公正な入学者選抜を行います。

<各選抜方式の概要>

(1)一般選抜

学力試験結果に重点を置き評価する。

(2)大学入学共通テスト利用選抜

共通テストの学力試験結果に重点を置き評価する。

(3)総合型選抜

多様な試験結果を総合的に評価する。

(4)学校推薦型選抜（公募（地域特別枠））

出身高校の推薦に重きを置き評価し、併せて地域医療貢献への意欲等を評価する。

(5)学校推薦型選抜（指定校制）

出身高校の推薦に重きを置き総合的に評価する。

(6)学校推薦型選抜（指定校制（栃木県地域枠））

出身高校の推薦に重きを置き評価し、併せて栃木県の地域医療貢献への意欲等を評価する。

(7)学校推薦型選抜（系列校）

出身高校の推薦に重きを置き総合的に評価する。

(8)一般選抜（栃木県地域枠）

学力試験の結果に重点を置き評価し、併せて栃木県の地域医療貢献への意欲等を評価する。

(9)大学入学共通テスト利用選抜（栃木県地域枠）

共通テストの学力試験結果に重点を置き評価し、併せて栃木県の地域医療貢献への意欲等を評価する。

<入学までに求める学習成果>

医学部では、多様な学問分野を学修することから、将来、医師となり活躍するために必要な学力、倫理観、医学や社会への高い関心などを身に付けておくことを望みます。

「学力の3要素」を踏まえた多面的・総合的評価について

◎：特に強く関連

○：強く関連

△：関連

入試種別		評価方法	知識・技能	思考力 判断力 表現力	主体性を持って 多様な人々と 協働して学ぶ態度
総合型選抜	総合型	自己申告書等			◎
		適性試験	◎	○	
		小論文	○	◎	
		面接		◎	◎
学校推薦型選抜	公募（地域特別枠） 指定校制	調査書			◎
		自己申告書等			◎
	指定校制（栃木県地域枠） 系列校	適性試験	◎		
		小論文		◎	
		面接		◎	◎
一般選抜	一般	調査書			◎
		学力試験	◎		
		小論文		◎	
		面接		◎	◎
	大学入学共通テスト利用	調査書			◎
		学力試験	◎		
		小論文		◎	
		面接		◎	◎
	栃木県地域枠	調査書			◎
		学力試験	◎		
		小論文		◎	
		面接		◎	◎

〔禁煙への取り組みについて〕

獨協医科大学では、人々の健康を守る医療職者を育成する大学として、入学者は喫煙しないことを約束できる方とします。

獨協医科大学

総合型選抜に出願される皆さんへ

○ 獨協医科大学はこういう大学です

獨協医科大学の母体である獨協学園は、1883（明治16）年に西周を初代校長として開校された獨逸学協会学校（現在の東京、目白にある獨協中学・高校の前身）から出発し、ドイツ文化の習得・普及を介して日本の発展に寄与してきました。その結果、戦前には全卒業生の4割以上が医療関係者として日本全国で活躍し、医学界の中心を獨協出身者で占める状況が続いていました。戦後、このような状況を踏まえ、学園内に医科大学を設立しようとする機運が盛り上がり、1973（昭和48）年4月に栃木県壬生町の地に開学することができました。

この48年間に4,450名の医師を世に送り出し、日本全国で地域医療に貢献しています。また博士（医学）も1,610名誕生しており、本学に残って後輩の教育に携わっている者も多く、現在、教授31名、准教授45名がそれぞれの分野で活躍しています。

今日の医療界は、少子・高齢化社会の到来に伴う社会・経済情勢の変化により大きな変革の波に飲まれています。医学教育にも世界共通のグローバル化の波が押し寄せ、医学教育モデル・コア・カリキュラムを中心とした基幹教育の充実、臨床研修の必修化による基本診療技術の普及などが実行に移されています。本学では、この流れを先取りして1998（平成10）年に従来の教育内容を見直し、新しい教育理念の下に全学年にわたるカリキュラム改革を行いました。

- 1) 教育とは「学生本人の力を引き出し、育む」ことが本意であり、医学を修得するのは学生自身であることを十分認識させ、主体的な学習能力を養う。
- 2) 医師であると同時に、社会人として心身ともに健康でバランスのとれた人格形成を目指す。
- 3) 患者の権利と生命の尊厳とを尊重し、医の倫理に則り、思いやりのある医療を実践できる医師としての人格を養う。
- 4) 患者の身体的・精神的・社会的側面を理解して、問題点を整理し解決する能力を養う。
- 5) 地域社会における保健・衛生及び福祉の向上に独自の計画が立てられる能力と責任感を養う。
- 6) 国際的医療情報の収集及びそれを解析する能力を養う。

この結果、獨協医科大学在学中の6年間では受験偏差値の呪縛から開放されて、実践的な自己学習能力を向上させるカリキュラムが用意されています。例えば、1学年では「地域医療早期体験実習」において、地域社会における医療機関や福祉施設のあり方を自ら体験し理解することや学生の問題解決能力を培うための少人数による教育「PBLテュートリアル」を1～2学年、グローバルな医学教育に対応するため「医学英語」を1～4学年にわたって開講、更に医科学の研究がどのように行われているのかを理解し、科学的思考力の育成を図ることを目的に「医学研究室配属」を1～6学年に開講するなど、特色的なカリキュラムが組まれています。

また、5学年から始まるCC（Clinical Clerkship）といわれる診療参加型臨床実習の中で、実践的診療技術を学ぶと同時に患者とのコミュニケーションや医療スタッフとのチームワークを学び、6学年ではCCで培った知識や技術を基に、ACC（Advanced Clinical Clerkship）で更にステップアップし、医療チームの一員として診療に参加します。

本学を卒業して医師国家試験に合格すると、卒後臨床研修に入ることになります。

獨協医科大学病院では、臨床研修センターを立ち上げ、総合診療方式（スーパーローテート）による研修プログラムを実施しています。2年間の研修修了後は、後期臨床研修のレジデントとして採用され、希望する診療科でさらに専門的医療を学びます。臨床研修修了後には、本学教員、大学院医学研究科への進学、専門医・認定医の資格取得など多彩な進路が用意されています。獨協医科大学病院では、次のような理念を全教職員共通の目標として掲げ、特定機能病院としての役割を果たしていこうとしています。

- 1)医療倫理の徹底
- 2)高度で良質な医療の提供
- 3)医療の進歩への貢献
- 4)連携医療の構築
- 5)良質な医療人の育成

獨協医科大学病院には診療各科に加え、認知症疾患医療センター、総合周産期母子医療センター、救命救急センター、とちぎ子ども医療センター、PET（陽電子放射断層撮影装置）センター、総合がん診療センター、ハートセンター、乳腺センター等、23のセンターを備え、質の高い医療サービスを提供しています。

また、2010（平成22）年1月からは大学病院を基地として栃木県ドクターヘリが運航しています。救急専門の医師及び看護師が現場で応急処置を施し速やかに適切な医療機関に運ぶことができ、傷病者発生から初期治療までの大幅な短縮による救命率の向上と後遺症の軽減に貢献しています。

2015（平成27）年3月には、創立40周年記念事業の一環として、「医療」と「教育」のより一層の充実を図ることをコンセプトにした「教育医療棟」が建設され、内部には多岐にわたる臨床実習を可能とするシミュレーション室を配置するなど、学生教育の幅広いニーズに対応できる体制が整えられています。

さらに、2016（平成28）年度からリウマチ・膠原病内科、総合診療科、乳腺科の3科が加わるなど、日々の発展とともに大学病院としての責務を果たしています。

獨協医科大学は、埼玉県越谷市に埼玉医療センター（2017（平成29）年11月に名称変更）

を1984（昭和59）年に開院しました。ここでは、第6次埼玉県地域保健医療計画に基づく病院整備計画において200床増床が承認され、923床を有する一般病床では埼玉県最大規模の病院となりました。診療面においては、28の診療科を始めとして、救命救急センター、周産期母子医療センター、総合がん診療センターなど地域のニーズに則した機能の充実に努めるとともに、遺伝に関する様々な不安や悩みに対応する遺伝カウンセリングセンター、女性だけでなく男性不妊にも力を入れているリプロダクションセンターなどの新分野の診療にも積極的に取り組んでいます。

教育面においては、獨協医科大学の臨床部門に属し3・4学年の講義と5学年の臨床実習、6学年のACC（Advanced Clinical Clerkship）及び集中講義を一部分担するとともに、本学卒業後の臨床教育を担当しています。

教育病院として“病気を診るのではなく、病気になった人間を診る”ことを念頭においた医療を実践でき、最新の医療に対応できる質の高い医療人を目指しているのが特徴です。

また、大学病院、埼玉医療センターに続く本学3番目の医療機関として、栃木県日光市に日光医療センターを2006（平成18）年に開院しました。ここでは、18の診療科と199の病床を備え、「地域社会の信頼に応えうる基幹病院として、医療を求める人々に思いやりの心を持って接し、高度で良質な医療を提供する」という基本理念の下、指定管理者制度による日光市立三依診療所の運営や日光地区の病院輪番制（2次救急）病院として救急医療に参画し、2016（平成28）年3月に地域災害拠点病院及び栃木県DMAT指定病院に認定されました。

2023（令和5）年1月には新病院へ移転して、地域社会からさらに信頼される中核医療機関として進化していきます。

獨協医科大学では、実践的な臨床教育だけではなく、最新の高度医療を提供できる医師に必要なサイエンス・マインドを高めるために、大学院医学研究科博士課程が開設されており、基礎医学や臨床医学の各専門分野の高度な研究活動の拠点となっています。各研究室には最新の研究設備や機器類が整備され、病気の原因究明や治療法の改善を目指した先進的な医学研究が共同利用体制の下に進められています。

このような環境の中で、皆さんが本学の教育理念である「患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師」を目指してのびのびと学び、卒業後は医学・医療の様々な分野において指導的な役割を果たしてくれることが私たちの願いです。

○ 獨協医科大学が総合型選抜入学者に求めるもの

21世紀の医学・医療がさらに発展していくために、次世代の優れた人材を育成していくのは大切なことであり、それは獨協医科大学の使命でもあります。本学では開学以来の一般入学試験に加えて、1981（昭和56）年度から指定校制推薦入学試験、1998（平成10）年度から学士編入学試験、2002（平成14）年度から大学入試センター利用入学試験を導入しており、多様な人材構成によるクラスの活性化を通して学習効率の向上を目指してきました。2004（平成16）年度から、新しい入学者選抜方式として従来の学士編入学試験を発展的に解消して本選抜を導入した目的は、他分野において豊富な経験や才能を発揮した人材をクラスに迎え入れて、お互いに協力し、理解し、そして切磋琢磨しあうことで生まれてくる相互信頼関係を育むことにあります。総合型選抜入学者は、他分野で得た経験を基にして、この相互信頼関係を育む核となって、リーダーシップを発揮しながら、お互いの自己学習能力を高めあっていくことが期待されます。

総合型選抜は、一般に「学力よりもそれ以外の能力を重視する入学者選抜」として捉えられがちですが、医学部においてはたゆまなく進歩する膨大な医学の知識・技能・態度を効率よく習得することが求められています。さらに、卒業後も信頼される医師として活躍するためには、生涯に渡って自己研鑽を続けていくことが必要です。したがって、医学部における総合型選抜入学者はそれに対応できるだけの学習能力をすでに持っていることが大前提になります。私達が考える「学力」とは、「学んだ力」「学ぶ力」「学ぼうとする力」という三つの力の総和であると考えています。この三つの力をバランスよく身につけるためには、「学ぶ意味」をよく理解している必要があります。

本学が総合型選抜入学者に求める資質として、「Compassionate」「Competent」「Communicate」という「三つのC」が必要だと考えています。「Compassionate」とは、人の痛みや苦しみを敏感に察知して、それを心からやわらげたいと思える人間性を持つことです。「Competent」とは、自分の持っている知識を総動員して目の前の困難を切り開く能力を持つことです。医学の進歩に対して自己学習を怠らず、自分自身を常に内省し、改善点を見つけてはそれを直していくという不断の努力が要求されます。「Communicate」とは、患者だけではなく、同僚医療人や世界の医学文献から正確な情報収集を行い、それを整理して価値判断を下し、目の前の患者に最適の治療を提供する能力を持つことです。

総合型選抜入学者は卒業後、医療、研究、後進の育成など幅広い分野で活躍していただき、本学発展の原動力となることが期待されています。したがって、総合型選抜入学者に求められる最も重要なことは、獨協医科大学がどういう大学であるかをよく理解した上で、なぜ本学の一員になりたいのかについて明確な意識を持っていることです。

教授から総合型選抜受験生へのメッセージ

1) 基礎医学系教授からのメッセージ

獨協医科大学医学部の総合型選抜は、他分野の経験や才能のある人材を迎え入れることで、学生同士の好ましい相互作用と相乗効果を育むことを目的にしています。すなわち、総合型選抜は単に他の一般選抜・大学入学共通テストを回避して本学医学部に入学するための一手段ではありません。総合型選抜入学者には、勉学のみならず、学生生活のすべてにおける「同期のリーダー」として、自ら学ぶ姿勢、そして未知の困難に対処していく姿を仲間たちに示してほしいと思います。

さて、医学は「基礎医学」「臨床医学」「社会医学」に分かれます。基礎医学には解剖学、生理学、病理学等が、臨床医学には内科学、外科学、産科婦人科学等が、社会医学には衛生学、公衆衛生学、法医学等が含まれます。

私が専攻・担当している公衆衛生学は、医学部医学科では基礎医学に属していますが、大学院医学研究科では社会医学の一専攻分野です。生活習慣病をはじめ、ほとんど多くの病気は、一つの原因だけから発症するのではなく、多くの遺伝要因と社会環境要因・生活習慣要因などが相互作用して起こる多因子疾患です。近年は中でも胎児・新生児期に受けた環境要因が病気の発症に強く関わることでDOHaD仮説として大きな注目を浴びています。私たちの講座では、長いライフコースを通じた予防医学と妊娠前からの個別化予防医学（preconceptional tailor made preventive medicine）の実現を目指して、遺伝子と環境を同時に測定・分析することで病気の本態および危険要因の解明を進め、同時に、「病気になる前の人々」が属する社会のしくみを改善するための取り組みも行っています。そしてそのために、基礎・臨床医学講座はもちろん、自治体、企業、との数多くの共同研究や共同事業を精力的に進めています。

最近の医学部受験生に志望動機を尋ねると、多くの方が「臨床の専門医になり、地域医療に従事することである」と答えます。もちろんそれも素晴らしいことです。その夢は本学医学部で真摯に学ぶことで叶えられることと思います。しかし一方で、若い皆さんにはぜひとも「基礎医学研究を極めて、病気の正体を見つけて今まで治らなかった患者さんを助けたい」、「少しでも良い診断方法や治療方法を開発して患者さんの幸せに貢献したい」とか、「病気に罹らないですむ予防医学を研究したい」、「みんなが健康で幸せな社会を作りたい」というような、大きな夢と高邁な志を持ち、努力を積み重ねてほしいと思います。そして将来はぜひ私たちと一緒に、「学問・研究を通じて人を育てる」伝統ある獨協学園の本学医学部で、医療の発展・医学研究推進・公衆衛生の向上という公共的使命を担う医師・医学研究者を育てていきましょう。

本学の将来を担う若者の応募を心から歓迎します。

公衆衛生学主任教授 小橋 元

2) 内科系教授からのメッセージ

獨協医科大学医学部の総合型選抜入学試験は4年制以上の大学の卒業生もしくは2年次までの課程を修了している方を対象とするものです。獨協医科大学医学部は「globalな視点をもったリーダーシップ」を発揮し、これからの医療界に貢献・牽引していく熱意あるユニークな人材を求めて、2004年に従来の学士編入学試験を発展的に解消して、現在の医学部総合型選抜入学試験にいたっています（2021年までに104名が入学）。

獨協医科大学医学部では「リーダーシップを発揮できる人材を求めている」と述べてきました。「リーダーシップ」というと医療の分野でいえば、病院長・診療部長・教授などが持つべきスキルと頭に浮かべる人が多いと思います。しかしながら、リーダーシップとは本来、すべての人に必要かつ有益なスキルであると考えられます。例えば、種々の課題解決を担う医療チームのような集団でチームリーダーのみならず、チームの個々のメンバーが主体性を持って課題解決に取り組み、内発的動機付けを向上させ、視野を広げるといふ「個々のメンバーのレベルでのリーダーシップ」を発揮できれば、リーダーがメンバーからも好ましい影響をうけるという好循環を形成でき、課題解決や更なるinnovationにつながることを期待できます。

獨協医科大学の属する学校法人 獨協学園の歴史は1881年設立の獨逸学協会、1883年設立の獨逸学協会学校に遡ります。戦前の旧制・獨協中学校の卒業生の4割が医療関係に就くという状況から、獨協学園内部に「医科大学設立」機運が高まり、獨協医科大学は1973年に栃木県に開学したのです。開学以来、獨協学園中興の祖である天野貞祐先生の提唱された「大学は学問を通しての人間形成の場である」という基本理念のもと、既に半世紀近くが経過し、4481名の卒業生を輩出しております。多くの優秀な臨床医、研究者を育成し、母校 獨協医科大学のみならず、多くの大学・病院・研究施設・団体に要職に就き、リーダーシップを発揮している卒業生が多数おられます。

獨協医科大学は獨協医科大学病院（1195床）、埼玉医療センター（923床）、日光医療センター（199床）の3病院を擁する我が国屈指の施設で日常的にありふれた疾患（common disease）から高度で難度の高い医療までオールラウンドに学びつつ、リサーチマインド（探求する志）、つまり、日常診療の場であって、患者の病態を的確にとらえて科学的に分析して臨床医学を実践するという姿勢を涵養する医学教育体制で医療界の次世代を担うリーダーの養成を行っています。

医療界におけるリーダーシップを発揮していただきたく、是非とも獨協医科大学医学部を受験してください。

精神神経医学主任教授 下 田 和 孝

3) 外科系教授からのメッセージ

獨協医科大学医学部の総合型選抜は2004年の導入以来、2021年までに104名の優秀な学生を入学させてきました。総合型選抜入学者は高い能動的学習能力を持ち、かつ、他分野で得た経験を活かしながら、クラス内でリーダーシップを発揮できる人材であることが求められています。外科治療の中核である「手術」成功の鍵は外科医の優れたリーダーシップによることが大きいのです。外科医は術前計画から手術実施、術後管理の全プロセスにおいて若手医師のほか看護師、放射線技師など他職種からなるチーム全体を俯瞰し、適切な手術運営能力を発揮する必要があります。我々、外科医の視点からは総合型選抜入学者にはこのリーダーシップを期待します。

医師は生涯にわたり最新の知識を学び続けることで良質な医療を提供する責務があります。一方、手術には知識の習得のほかに技術的修練が欠かせません。古くからの手術修練の基本は「徹底的に見て覚える」ことで、この術中に「見る」とは、文章や口頭では決して伝わることのない空間的なイメージとして脳裏に焼き付けることです。様々な伝統芸能がこのスタイルで伝承されているのと同様であり、これが「手術がアートと呼ばれる所以」であります。そして手術の現場でなされる会話は手技書では伝わらないtipsの宝庫であるし、必要に応じて行われるトラブルシューティングを見て覚えることは質の高い外科治療を提供できる優秀な外科医の育成には必須の課程と考えます。一方、手術と伝統芸能の最大の違いは、手術は「サイエンスとしての外科学」を実践するための技術であり、科学的な視点から評価され、その上で正しく伝承されていくべきものであることを忘れてはなりません。獨協医科大学の外科系各診療科は高い手術のアクティビティーを有しており、多くの優秀な外科医を育成・輩出して参りました。また、これらのon the job training (OJT) 以外にも、獨協医科大学ではカダバー・サージカル・トレーニング (CST)とよばれる「実践的な手術手技向上研修」を解剖学教室と外科系各講座の協力により過去10年以上にわたり実施してきました。さらに、新たな卒前教育の試みとして、第2学年の解剖学実習中に外科系教授陣が手術の特別講義を行うことにより早期（低学年）からの臨床医学へのモチベーションを高めるなど、質の高い外科教育を実践しております。

獨協医科大学は大学病院、埼玉医療センター、日光医療センターの3病院体制で全国でも最大規模の病床数を誇っており、各専門領域の高度医療の提供と地域医療の中核を担っています。また、ドクター・ヘリの基地病院として北関東における高度救命救急医療を提供し続けています。外科系教授からのメッセージとして、特に外科医を目指し、本学の一員として共に頑張っていくと考えている諸君の総合型選抜受験をお待ちしています。

整形外科学主任教授 種 市 洋

◇ 総合型選抜

○ 募集学科・人員

医学部医学科（第1学年） 3名以内

○ 出願資格

以下の1～4の条件をすべて満たす者

1. 次のいずれかに該当する者
 - 1) 4年制以上の大学（外国の大学を含む）を卒業又は卒業見込みの者
 - 2) 4年制以上の大学（外国の大学を含む）に在籍し、2年次までの課程を修了している者（出願時の休学者（留学等による休学を除く）及び医学部医学科在籍者を除く）
2. 令和4年4月1日現在で30歳未満の者
（平成4年4月2日以降の出生者）
3. 学業のみならず、課外活動や社会活動に積極的に取り組んできた実績があり、本学を第一志望として入学を志す者
4. 卒業後も本学の一員となって医学・医療に貢献する意欲を持つ者

○ 出願手続

1. 出願期間：令和3年9月1日（水）～9月17日（金）（出願書類郵送必着）
2. 出願先：獨協医科大学 学務部入試課
〒321-0293
栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地
電話 0282（87）2108（直通）

○ 出願方法

下記のものを取り揃え、出願期間中（14 ページ参照）に書留郵便により送付してください。

- ① 志願票 **A**・写真票 **B**・受験票 **C**・検定料納付票 **D**（本学所定の用紙に自筆で記入。受験票 **C** の裏面に速達料金の切手を貼ってください）
- ② これまでの大学受験活動履歴（本学所定の用紙に自筆で記入）
※ 記述を裏付ける客観的資料として、合格通知やセンター試験成績、予備校模擬試験成績などのコピーを添付してください。提出資料は返却しないので、原本ではなくコピーを添付してください。
- ③ 私の過去・現在・未来（本学所定の用紙（B4 サイズ）に自筆で記入：1,800 字以上 2,000 字以内）
※ これまでの大学生活で何を心得て今後本学でどのように活かしていきたいのか等、客観的資料（②以外）を添付の上、記述してください。提出資料は返却しないので、原本ではなくコピーを添付してください。
- ④ 課外活動等の顕著な成績（スポーツ・音楽・芸術等）（本学所定の用紙に自筆で記入）
※ 記述を裏付ける客観的資料を添付してください。提出資料は返却しないので、原本ではなくコピーを添付してください。
- ⑤ 出身大学及び大学院の在籍・卒業を証明するもの（在籍証明書、単位取得証明書、学位記（コピー）等。ただし、学生証のコピーを除く）
- ⑥ 出身大学及び大学院の成績証明書
- ⑦ 写真 2 枚（縦 4cm、横 3cm、無帽上半身正面、令和 3 年 6 月以降撮影のものを志願票 **A**・写真票 **B**（2 か所）に貼付してください）
- ⑧ 検定料 60,000 円（本学所定の振替払込用紙を用い、最寄りのゆうちょ銀行・郵便局から払込みをしてください。なお、払込機能付きATMを利用することもできます。ゆうちょ銀行又は郵便局の窓口から払込みの場合は「振替払込受付証明書（お客さま用）」（原本）を、払込機能付きATMから払込みの場合は「ご利用明細票（振替受付票）」（コピー）を検定料納付票 **D** に貼付してください。）
- ⑨ 連絡用宛名シール
※ 合格通知等の発送に使用しますので、確実に受け取ることができる住所（原則として保護者の住所）及び志願者本人の氏名を記入してください。

- ※ 1. 上記の手続を完了した者には本学から受験票を発行します。
- ※ 2. 受理した書類・検定料は理由の如何にかかわらず返還しません。
- ※ 3. 虚偽の記載が判明した場合は、合格を取り消すことがあります。
- ※ 4. 疾病・負傷や身体障害等により、受験上の特別な配慮を希望する者は、下記の本学ホームページに記載の申請手順に従い、申請を行ってください。

<https://www.dokkyomed.ac.jp/dusm/exam/special-measure.html>



○ 第1次試験

1. 試験日：令和3年10月2日（土）
2. 試験場：獨協医科大学
3. 集合時間：8:30
4. 集合場所：本学掲示板前（20ページ参照）
5. 試験方法：Ⅰ. 適性試験 9:00～12:00
Ⅱ. 小論文試験 13:00～15:00
Ⅲ. 書類審査
※適性試験・小論文試験は記述式です。

試験当日の注意事項：

- ① 受験票を必ず携帯してください。
- ② 試験開始後20分以上遅刻した場合は、受験は一切認められません。
- ③ 机上には、黒鉛筆、鉛筆キャップ、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り（電動式・大型のもの・ナイフ類を除く）、時計（辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの・秒針音のするもの・キッチンタイマー・大型のものを除く）、眼鏡、ハンカチ、ティッシュペーパー（袋又は箱から中身だけ取り出したもの）、目薬を置くことができます。
- ④ 小論文試験では、英和辞書1冊を使用することができます。ただし、電子辞書を除きます。
- ⑤ 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類、定規（定規の機能を備えた鉛筆等を含む。）、コンパス、電卓、そろばん、グラフ用紙等の補助具を使用すると不正行為となります。
- ⑥ 試験時間中に使用すると不正行為となる電子機器類は、試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切っておいてください。
- ⑦ 英文字がプリントされている服等は着用しないでください。着用している場合には、脱いでもらうことがあります。
- ⑧ 昼食は各自用意してください。

○ 第1次合格発表

1. 日時：令和3年10月13日（水）10:00
2. 方法：本学掲示板（20ページ参照）・本学ホームページ（19ページ参照）に掲示・掲載します。

○ 第2次試験

1. 試験日：令和3年10月16日（土）
2. 試験場：獨協医科大学
3. 集合時間：8:30
4. 集合場所：本学掲示板前（20ページ参照）
5. 試験方法：Ⅰ. ワークショップ試験 9:00～10:00
Ⅱ. 面接試験 10:20～

試験当日の注意事項：

- ① 受験票を必ず携帯してください。
- ② 集合時間を厳守してください。
- ③ 昼食は各自用意してください。

○ 選抜方法

第1次試験は、適性試験・小論文試験の得点及び書類審査における評価を総合して合格者を決定します。

第2次試験は、第1次試験合格者に対してワークショップ試験、面接試験を行い、第1次及び第2次試験の成績を総合して合格者を決定します。

1. 適性試験：

科学的分析力・推理力・言語能力を評価する問題を20題出題します。

2. 小論文試験：

英文の長文課題に基づいた客観的・論理的な作文能力を評価します。

3. 書類審査：

出願書類から推測される日常活動を考慮して社会に向き合う態度、主体性、計画性、医学に対する志、本学への貢献意欲などを評価します。

4. ワークショップ試験：

複数人からなるスモールグループで与えられた課題に対する解決策を討議し、全員の合意の下にひとつの対策を提案してもらいます。グループの思考形成に参与する力や批判的思考力の技能・態度を評価します。

5. 面接試験：

1回当たり15分の個人面接を計4回実施し、多面的かつ総合的に評価します。

○ 合格発表

1. 日 時：令和3年11月1日（月）10:00

2. 方 法：本学掲示板（20ページ参照）・本学ホームページ（19ページ参照）に掲示・掲載し、合否結果を本人宛通知します。また、合格者には合格通知書とともに入学手続書類を送付します。

※ 状況によっては、繰上げ合格を行います。

○ 入学手続

期 日：【郵送のみ】令和3年11月8日（月）必着

※ 合格者は上記期日に入学手続書類を取り揃え、所定の手続をしてください。

※ 学納金は入学手続時までに入金を完了してください。

※ 指定期日に入学手続を完了しない者は、入学の意思がないものとみなします。

◇ 学納金等について

○ 納入金

下記の「①入学費用」と「②その他の費用（委託徴収金）」の合計金額とします。

なお、入学金を除く学納金（授業料及び教育充実費）については、2分割納入（分納）の制度があります。

① 入学費用

項 目	全納の場合	分納の場合		備 考
		前期	後期	
入 学 金	1,500,000 円	1,500,000 円	—	入学時のみ
授 業 料	3,500,000 円	1,750,000 円	1,750,000 円	
教育充実費	3,600,000 円 (2,100,000 円)	1,800,000 円 (2,100,000 円)	1,800,000 円 (—)	初年度 (2 年目以降)
合 計	8,600,000 円 (5,600,000 円)	5,050,000 円 (3,850,000 円)	3,550,000 円 (1,750,000 円)	初年度 (2 年目以降)

※分納の場合、入学手続き完了後に当該手続きに関する書類を送付します。

※教育充実費の分納は初年度のみとなります。

② その他の費用（委託徴収金）

項 目	金 額	備 考
学 友 会 費	100,000 円	入学時のみ
父 母 会 費	600,000 円	入学時のみ
合 計	700,000 円	

○ 納入金返還申し出期限

入学手続きを完了し、令和4年3月31日（木）17:00までに入学を辞退する旨申し出があった場合には、入学金を除く納入金を返還します。ただし、申し出の期限を過ぎた時は、納入金は一切返還いたしません（委託徴収金を除く）。

○ 奨学金制度

① 獨協医科大学特別奨学金（第2学年以上、年額60万円）

② 獨協医科大学医学生教育ローン利子補給奨学金

※ 総合型選抜入学生で、学費支弁が困難なため学生又は保護者等学費支弁者が金融機関から教育（学資）ローンの融資を受けた者に対しては、経済的負担を軽減する観点から在学期間中の学納金相当額に係る利子の一部（年額20万円を上限）を奨学金として補給しています。

③ 獨協医科大学桜杏会互助事業修学金（原則第2学年以上）

④ 獨協医科大学災害罹災等学生に対する授業料減免

⑤ 日本学生支援機構奨学金

○ 寄付金

本学では教育研究設備充実のため、入学後に別に定める「寄付金募集趣意書」に基づき、任意の寄付金を募集します。

◇ 合格発表についての注意事項

合格者の受験番号は本学医学部掲示板及びホームページ上で発表します。



本学ホームページ

<https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/>

【合格者番号の掲示・掲載期間】

第1次合格発表：令和3年10月13日（水）10:00から10月16日（土）15:00

合格発表：令和3年11月1日（月）10:00から11月3日（水）15:00

注意：

- *合格発表に関する問い合わせ、インターネットの操作方法等には一切応じません。
- *インターネット上で、データの改ざん、通信上のトラブル等が発生しても本学は一切の責任を負いません。
- *インターネットの誤操作、読み違い等を理由とした第2次試験の欠席、指定期日以外の入学手続は一切認めません。

◇ 入学前教育について

本学では、総合型選抜での合格者に対して、入学前教育を行います。詳細については、合格通知書送付時にお知らせします。

◇ 個人情報の取扱いについて

本学では、出願にあたってお知らせいただいた氏名、住所、その他の個人情報は、入学者選抜、合格発表及び入学手続と、これらに付随する業務を行うために利用します。

また、入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入試結果の集計・分析及び入学者選抜方法の調査・研究、入学後の学生支援に関する業務に利用します。

取得した個人情報は適切に管理し、利用目的以外に使用することはありません。

※入学試験実施後に新型コロナウイルス罹患者が判明した場合、本学において保健所等関係機関と連携し、新型コロナウイルス感染症の罹患や濃厚接触者の疑いがある受験者の行動歴等の調査を行う際には、本学が保有する志願者情報を当該関係機関に提供する場合があります。ただし、その場合であっても、提供する個人情報は新型コロナウイルス感染拡大防止の目的以外には使用しません。

◇ 新型コロナウイルス感染症対策（受験生の対応）について

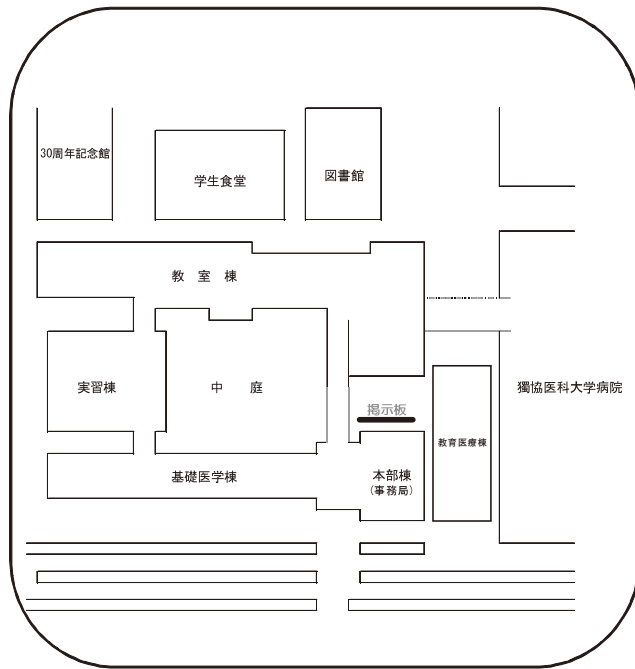
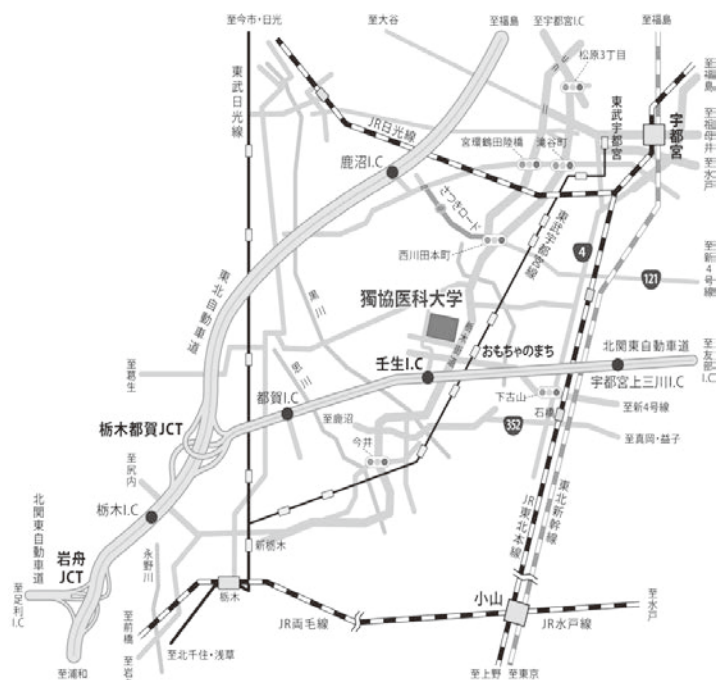
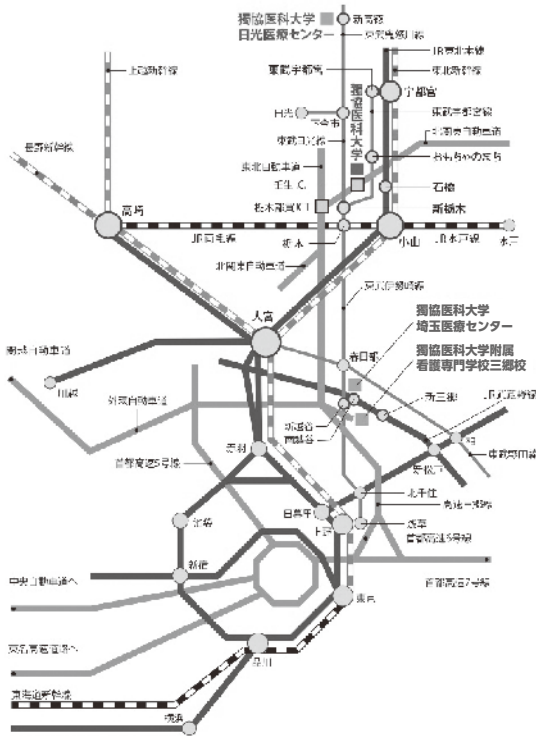
新型コロナウイルス感染防止に関する受験生への要請事項等について、医学部webサイトの「受験生の皆さんページ」に掲載しますので、本要項と併せて必ず内容をご確認ください。



医学部webサイト（受験生の皆さんページ）

<https://www.dokkyomed.ac.jp/dusm/exam/>

◇ 試験場案内図



電車を利用する場合

(東武鉄道を利用)

- 東武宇都宮線「おもちゃのまち」駅下車、西口より徒歩約15分（「獨協医大病院前」行きバスにて約3分）

(JRを利用)

- JR「宇都宮」駅より、市内バスにて「東武宇都宮」駅下車（約10分）
「東武宇都宮」駅より東武宇都宮線にて「おもちゃのまち」駅下車、西口より徒歩約15分（「獨協医大病院前」行きバスにて約3分）
- JR「宇都宮」駅よりタクシーにて約35分、JR「小山」駅よりタクシーにて約45分、JR「石橋」駅よりタクシーにて約15分

お車を利用する場合

- 東北自動車道から栃木都賀JCT經由北関東自動車道「壬生IC」から2分
- 東北自動車道「栃木IC」から30分
- 東北自動車道「鹿沼IC」から30分